

2024年土木学会
原子力土木委員会研究討論会
「不確実性の諸相とリスクコミュニケーション」

感染症分野におけるリスクコミュニケーション

奈良由美子

(放送大学教養学部/大学院文化科学研究科 生活健康科学プログラム)

2024年9月2日



はじめにー本報告の目的

- COVID-19パンデミックはリスクコミュニケーションの必要性をあらためて認識させた。
- 新興感染症についてのリスク評価ならびにリスク管理には常に不確実性が伴った。パンデミックの災害特性から、COVID-19に関するリスクコミュニケーションは、決して易しいものではなかった。
- 本報告では、COVID-19パンデミックの教訓もふまえながら、感染症に関するリスクコミュニケーションのありかたを考える。

本日の発表は個人としての見解を含んでおり、所属および関係する組織のものではありません。

リスクコミュニケーションの定義と本質

リスクコミュニケーション：個人、機関、集団間での情報や意見のやりとりを通じて、リスク情報とその見方の共有を目指す活動

US NRC: Effective Risk Communication (guideline)

Risk communication is an interactive process used in talking or writing about topics that cause concern about health, safety, security, or the environment. (US NRC)

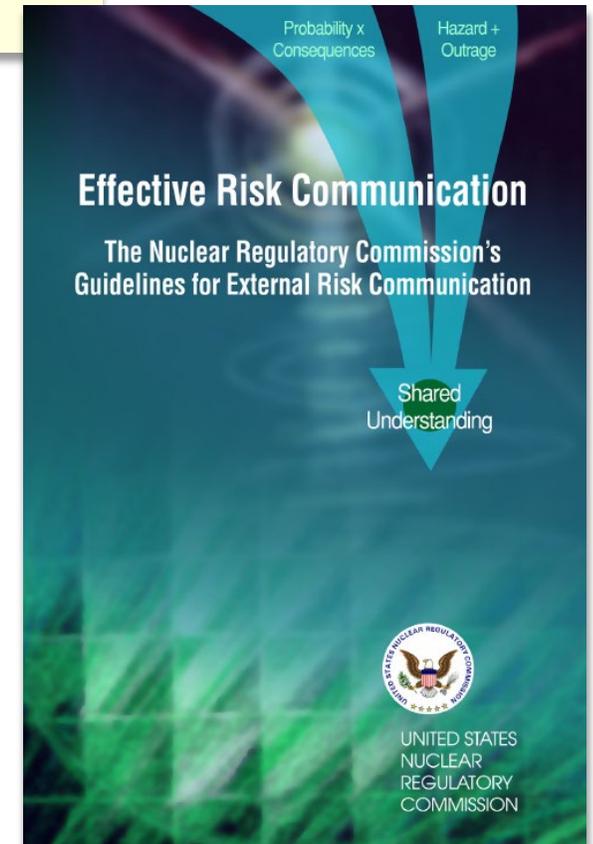


Why is risk communication a priority for the NRC?

Risk communication provides the essential links between risk analysis, risk management, and the public.

Successful completion of the NRC mission requires integration among each of these areas regarding values and assumptions, technical information, and decisions.

You need risk communication to reconcile differing perceptions of risks and gain an appreciation of stakeholders' points of view.



リスクコミュニケーションの定義と本質

リスクコミュニケーション：個人、機関、集団間での情報や意見のやりとりを通じて、リスク情報とその見方の共有を目指す活動

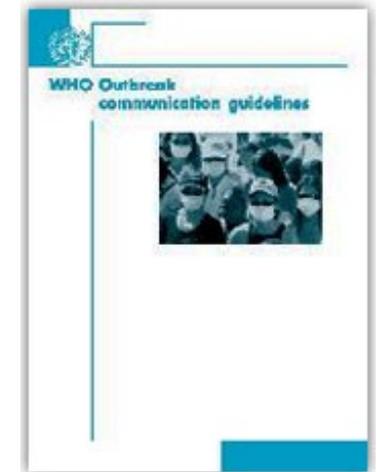
Risk communication refers to the real-time exchange of information, advice and opinions between experts or officials and people who face a threat (hazard) to their survival, health or economic or social well-being.

Its ultimate purpose is that everyone at risk is able to take informed decisions to mitigate the effects of the threat (hazard) such as a disease outbreak and take protective and preventive action. (WHO)

専門家や政策担当者、生存や健康、経済的・社会的福利に対する脅威（ハザード）に直面している人々とのあいだで、情報、アドバイス、意見をリアルタイムに交換すること。

リスクにさらされているすべての人が、疾病などの脅威（ハザード）の影響を軽減するために、情報にもとづいた意思決定を行い、保護・予防措置をとれることが、リスコミの究極の目的。

WHO outbreak communication guidelines (2005)



アウトブレイク、COVID19に関しても様々な機関がリスクコミュニケーションを導入、ガイドラインの策定や実践等を行っている。

Risk communication and community engagement readiness and response to coronavirus disease (COVID-19)

Interim guidance
19 March 2020



Crisis & Emergency Risk Communication (CERC), CDC

感染症対策とコミュニティ・エンゲージメント

コミュニティ・エンゲージメント：

コミュニティが抱える課題を解決し状態をよりよくするために、ステークホルダーが協力して課題解決に取り組むプロセス、および課題解決を促進する関係を構築するプロセス

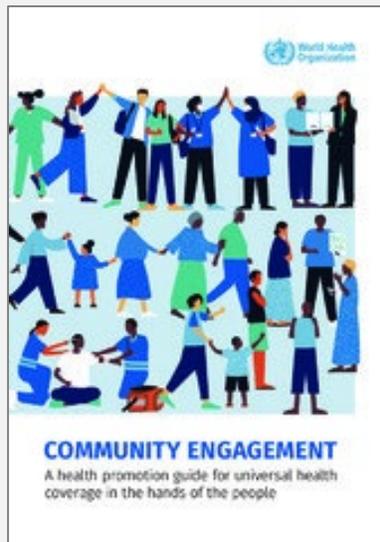
Community engagement (WHO):

A process of developing relationships that enable stakeholders to work together to address health-related issues and promote well-being to achieve positive health impact and outcomes

健康にプラスの影響と成果をもたらすために、ステークホルダーが協力して健康関連の問題に取り組み、ウェルビーイングを促進できる関係を構築するプロセス (WHO)

- コミュニティ・エンゲージメントは健康とウェルビーイングの推進に必要であり有効。
- その中核は、コミュニティ内の行動、環境、政策、プログラム、実践に変化をもたらすこと。

WHO (2020)
COMMUNITY ENGAGEMENT
A health promotion guide for universal health coverage in the hands of the people



WHO (2022)
WHO policy brief:
Building trust through risk communication and community engagement,
14 September 2022

COVID-19 政策を更新する上で検討すべき重要なアクション

- 1. 戦略的コミュニケーションを通して**信頼**を深める
- 2. 解決策を**地域住民**とともに**つくり上げる**
- 3. 緊急事態でない時にも緊急レベルの**リスクコミュニケーション**と**コミュニティエンゲージメント**の対応能力を維持する (平時の重要性)

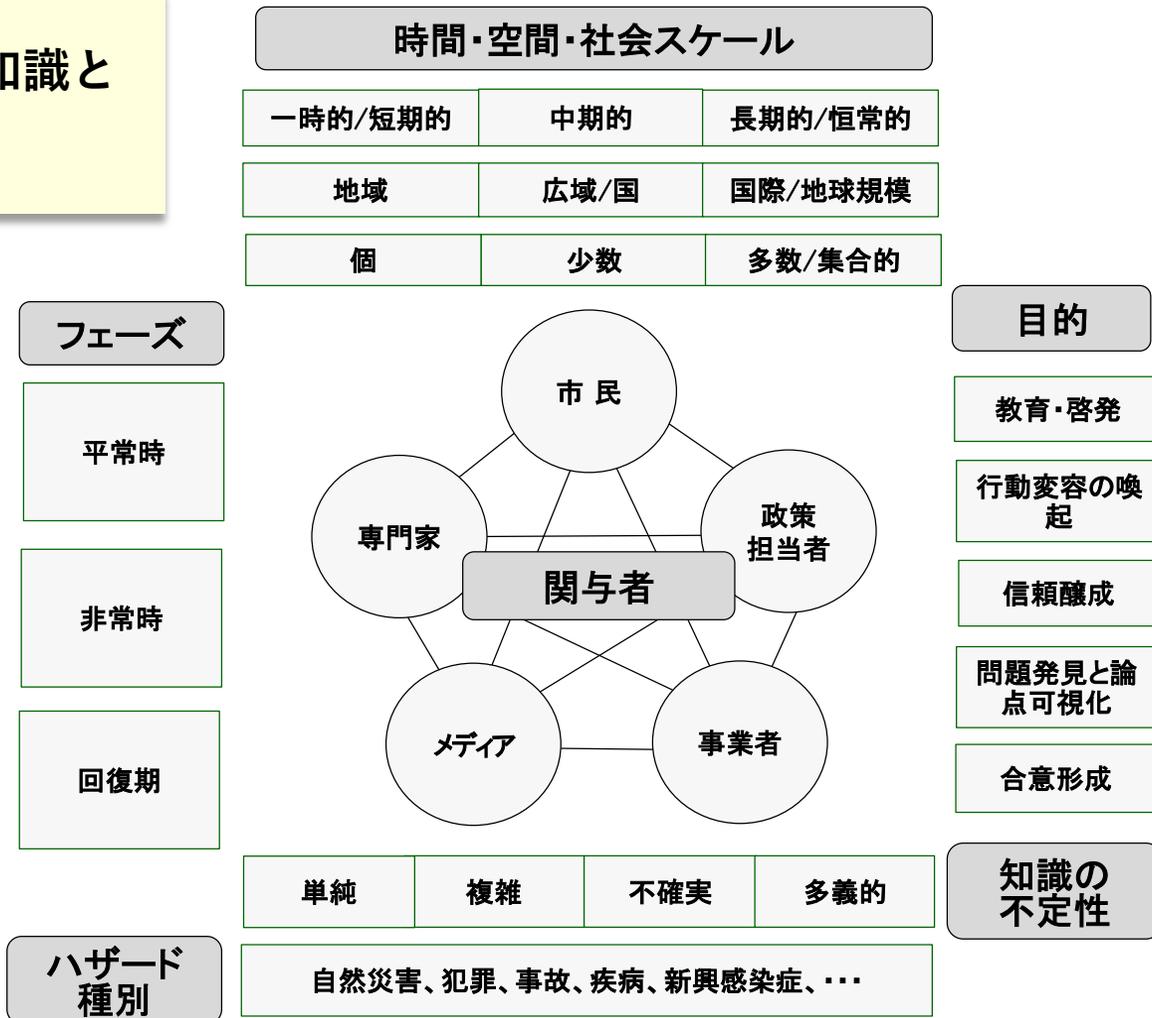
リスクコミュニケーションの進め方と全体枠組み

リスコミは学術的にも蓄積ある知識体系。理論/知識と実践/スキルの調和が重要。PDCA。

全体枠組みの把握

自らがこれから行おうとする（いま行っている）リスコミの部分と全体を意識したコミュニケーションデザインを不断に描き実践する

- 「何のために」、「いつ」、「どこで」、「誰に（誰と）」、「何について」
- そのうえで、「どのように」。テクニックに走ってはいけない（しかしテクニックを知っておくと不要な混乱を防ぐことはできる）。



COVID-19のリスクは（も）難しかった

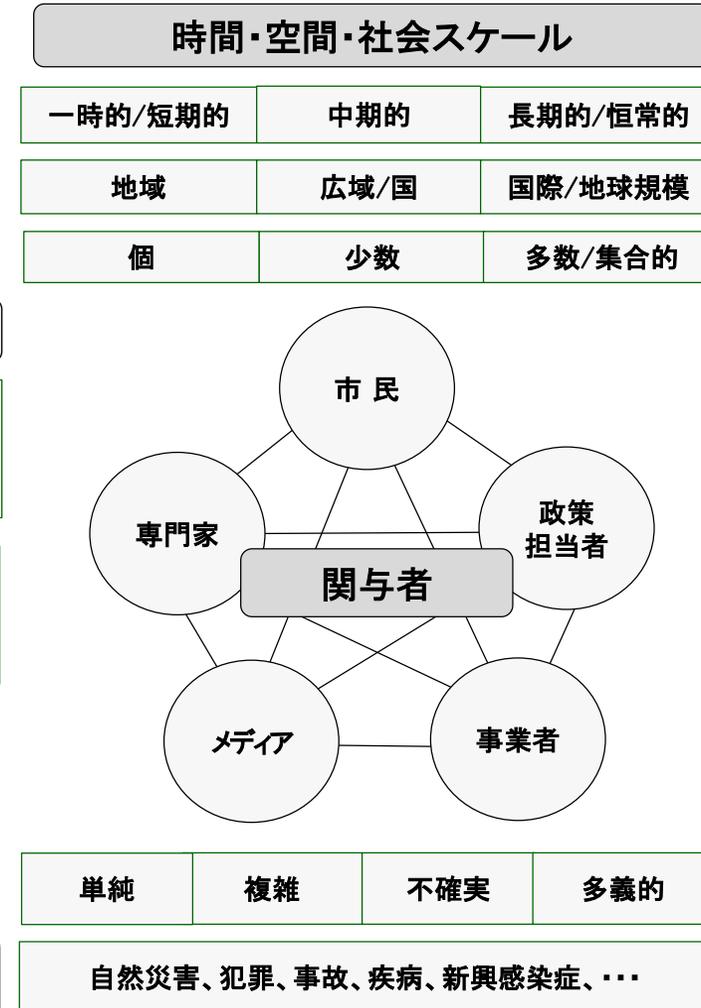
1. 知識の不定性
2. クライシスのフェーズからめまぐるしく変化する状況
3. あらゆる層が当事者
4. 多様で複合的な目的
5. システミックリスク
6. リスク（ & リスク評価 & リスク管理）の主体と客体？
7. 「なぜ」の重要性
8. 「喉元過ぎれば・・・」を繰り返さない（とくに人材育成）

リスクは学術的に多種ある知識体系。理論/知識と

行って
識した
に描き

で」、

ニツ
ニツ
こと



COVID-19のリスクは（も）難しかった

1. 知識の不定性

2. クライシスのフェーズからめまぐるしく変化する状況
3. あらゆる層が当事者
4. 多様で複合的な目的
5. システミックリスク
6. リスク（ & リスク評価 & リスク管理）の主体と客体？
7. 「なぜ」の重要性
8. 「喉元過ぎれば・・・」を繰り返さない（とくに人材育成）

- **新興感染症**とは「かつては知られていなかった、この20年間に新しく認識された感染症で、局地的に、あるいは国際的に公衆衛生上の問題となる感染症」（WHO）
- **作動中の科学**：科学的知見は常に現在進行形で形成されている。「新型コロナウイルスに関する科学的知見はまだ不完全。世界中の研究者達たちが時々刻々と知見を更新。COVID-19のメカニズム、治療法、効果のある対策のありかた、経済活動との共存、どれもまだ知見の収集が続いている段階」（藤垣, 2021）
- いっぽうで、エビデンスを待ってられない、今答えを出さなければならない問題がそこにある。

COVID-19のリスクは（も）難しかった

1. 知識の不定性
2. クライシスのフェーズからめまぐるしく変化する状況
3. あらゆる層が当事者
4. 多様で複合的な目的
5. システミックリスク
6. リスク（ & リスク評価 & リスク管理）の主体と客体？
7. 「なぜ」の重要性
8. 「喉元過ぎれば・・・」を繰り返さない（とくに人材育成）

- めまぐるしく変化する状況。変異株。ワクチン。ひとの意識と行動。
- その時々状況の特性をつかみながら、効果的なタイミングと内容のリスクが必要。
- クライシスコミュニケーションから始まったCOVID-19のリスク。フェーズとしてはクライシスが継続するなか、**ケアコミュニケーション、コンセンサスコミュニケーション**（ワクチン接種の優先順位や自己決定権、ワクチンパスポート導入の是非、私権制限に関する議論などなど等）も同時平行で。

COVID-19のリスクは（も）難しかった

1. 知識の不定性
2. クライシスのフェーズからめまぐるしく変化する状況
3. あらゆる層が当事者
4. 多様で複合的な目的
5. システミックリスク
6. リスク（ & リスク評価 & リスク管理）の主体と客体？
7. 「なぜ」の重要性
8. 「喉元過ぎれば・・・」を繰り返さない（とくに人材育成）

- あらゆる立場のひとが感染リスクにさらされる客体であり、感染リスクを減らす主体となる。
- **あらゆる層がリスクの関与者。** いかにか、多様な層に情報を届けるか、多様な層の声をすくえるか。
- **若者への対応、情報弱者への対応、・・・メディアの選択や対話の場の設定の工夫が必要。**

COVID-19のリスクは（も）難しかった

1. 知識の不定性
2. クライシスのフェーズからめまぐるしく変化する状況
3. あらゆる層が当事者
4. **多様で複合的な目的**
5. システミックリスク
6. リスコミ（& リスク評価 & リスク管理）の主体と客体？
7. 「なぜ」の重要性
8. 「喉元過ぎれば・・・」を繰り返さない（とくに人材育成）

- リスクに関する教育・啓発、行動変容の喚起から、リスク評価・管理機関等に対する信頼の醸成、問題発見と課題構築および論点の可視化、意思決定・合意形成・問題解決に向けたコミュニケーションまで。
- 感染症のリスクでは、長期的に行動変容を呼びかけ続けることが必要となる。要請ベースの施策のなかで、**どう行動変容を維持するか。**
- **クライシス初期の一方向的な情報発信。リスク問題が長期化、複合化するなか、広聴、対話も必要に。**

COVID-19のリスクは（も）難しかった

1. 知識の不定性
2. クライシスのフェーズからめまぐるしく変化する状況
3. あらゆる層が当事者
4. 多様で複合的な目的
5. システミックリスク
6. リスコミ（& リスク評価 & リスク管理）の主体と客体？
7. 「なぜ」の重要性
8. 「喉元過ぎれば・・・」を繰り返さない（とくに人材育成）

- 単独のリスクとその因果関係と管理方策の検討だけでは不十分。
- COVID-19以外の疾病のリスク、そのほかの**社会、経済、政治的な要因・影響**までを含めた包括的な観点からの分析と、**医療界、産業界、学会、市民社会、政府にまたがる包括的なガバナンス**が必要。リスコミもこの視座のもとで。
- **偏見、差別**の問題

COVID-19のリスコミは（も）難しかった

1. 知識の不定性
2. クライシスのフェーズからめまぐるしく変化する状況
3. あらゆる層が当事者
4. 多様で複合的な目的
5. システミックリスク
6. リスコミ（ & リスク評価 & リスク管理）の主体と客体？
7. 「なぜ」の重要性
8. 「喉元過ぎれば・・・」を繰り返さない（とくに人材育成）

■ **市民の科学および専門家に対する期待**：科学は確かな正解を答えてくれる、周辺のルート処理

■ **政策立案者の専門家に対する期待**：科学的知見の活用による将来のリスクの最小化を期待、科学者の助言は政策立案者の決定に正当性を付与する（Renn, 1999）。

「専門家の先生がたのご意見をふまえて・・・」

■ **専門家から市民へのリスコミ**。ヘルスプロモーションの即応力。

リスコミ（&リスク評価&リスク管理）の主体と客体？

： 誰から誰へのコミュニケーションか



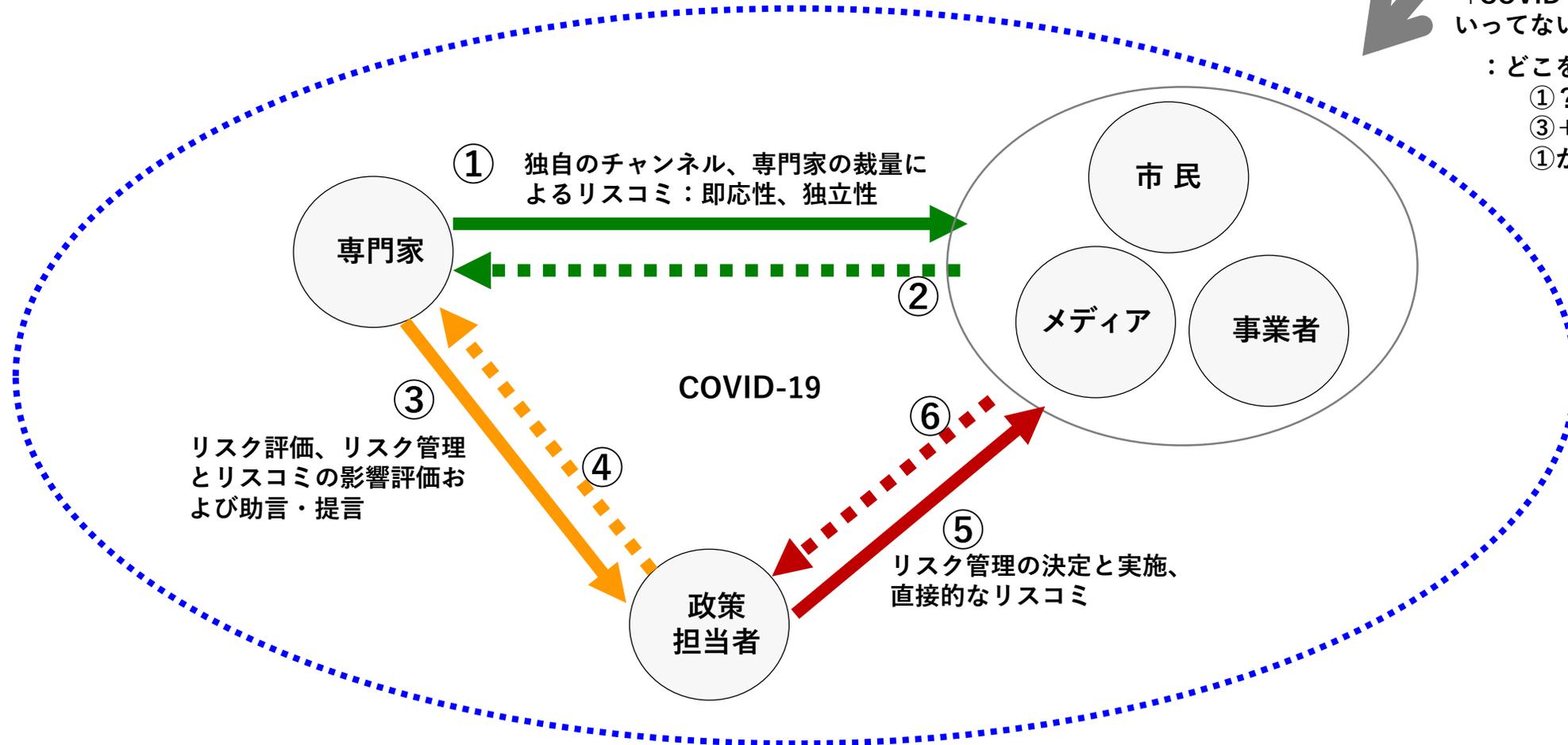
「COVID-19のリスコミはうまく
いってない」「うまくいってる」

：どこをとらえて？

①？ ②？ ③？…

③+⑤？…

①から⑥全体？



COVID-19のリスクは（も）難しかった

1. 知識の不定性
2. クライシスのフェーズからめまぐるしく変化する状況
3. あらゆる層が当事者
4. 多様で複合的な目的
5. システミックリスク
6. リスク（ & リスク評価 & リスク管理）の主体と客体？
7. 「なぜ」の重要性
8. 「喉元過ぎれば・・・」を繰り返さない（とくに人材育成）

■ 互いの「なぜ」を尊重しこれに応えるコミュニケーション

- ・ 政策担当者の「なぜ」（その政策をとる根拠 等）
- ・ 専門家の「なぜ」（リスク評価の根拠、リスク低減策の有効性 等）
- ・ 市民の「なぜ」（行動変容をする/しない・できない理由 等）

■ 納得のいかないコミュニケーションに対する 疑問、反発、不安、不満、不信

（矛盾する情報発信：

感染防止対策要請、自粛のお願い ↔ GO TO、オリパラ）

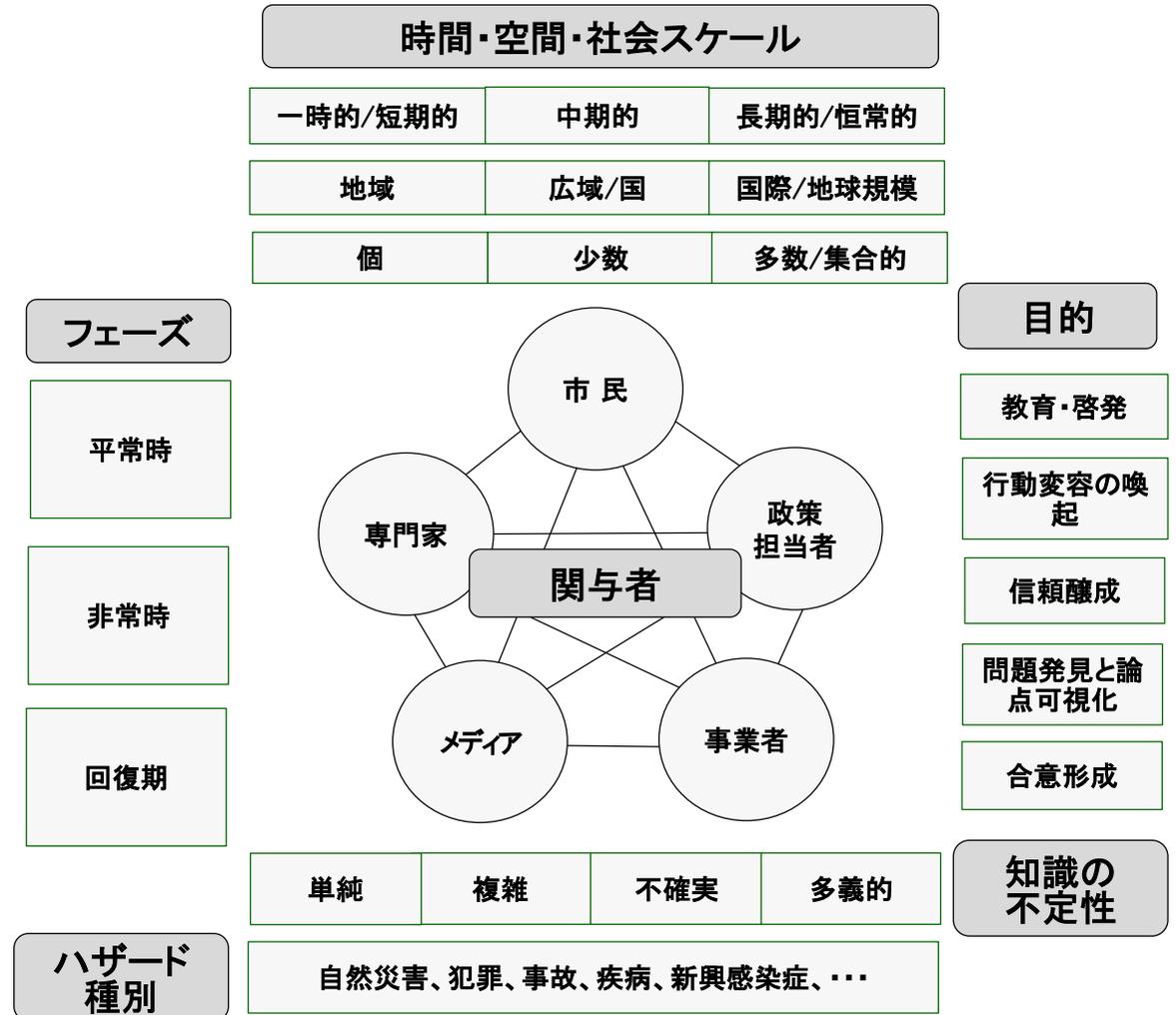
COVID-19のリスクは（も）難しかった

1. 知識の不定性
2. クライシスのフェーズからめまぐるしく変化する状況
3. あらゆる層が当事者
4. 多様で複合的な目的
5. システミックリスク
6. リスク（ & リスク評価 & リスク管理）の主体と客体？
7. 「なぜ」の重要性
8. 「喉元過ぎれば・・・」を繰り返さない（とくに人材育成）

- 新型インフルエンザ（A/H1N1）において、コミュニケーションの課題として指摘されたこと。
- クライシスのフェーズにあっては、日々現れる待ったなしのタスクへの対処に、各種資源は充当。組織をこえた**構造**や**制度の変革**、**人材育成**には着手しづらい。
- **感染拡大の波と波のあいだ、あるいは本格的に収束を迎えた平常時には、取り組む。**

COVID-19のリスクは（も）難しかった [再掲]

1. 知識の不定性
2. クライシスのフェーズからめまぐるしく変化する状況
3. あらゆる層が当事者
4. 多様で複合的な目的
5. システミックリスク
6. リスク（ & リスク評価 & リスク管理）の主体と客体？
7. 「なぜ」の重要性
8. 「喉元過ぎれば・・・」を繰り返さない（とくに人材育成）



リスコミ（&リスク評価&リスク管理）の主体と客体？ [再掲]

： 誰から誰へのコミュニケーションか



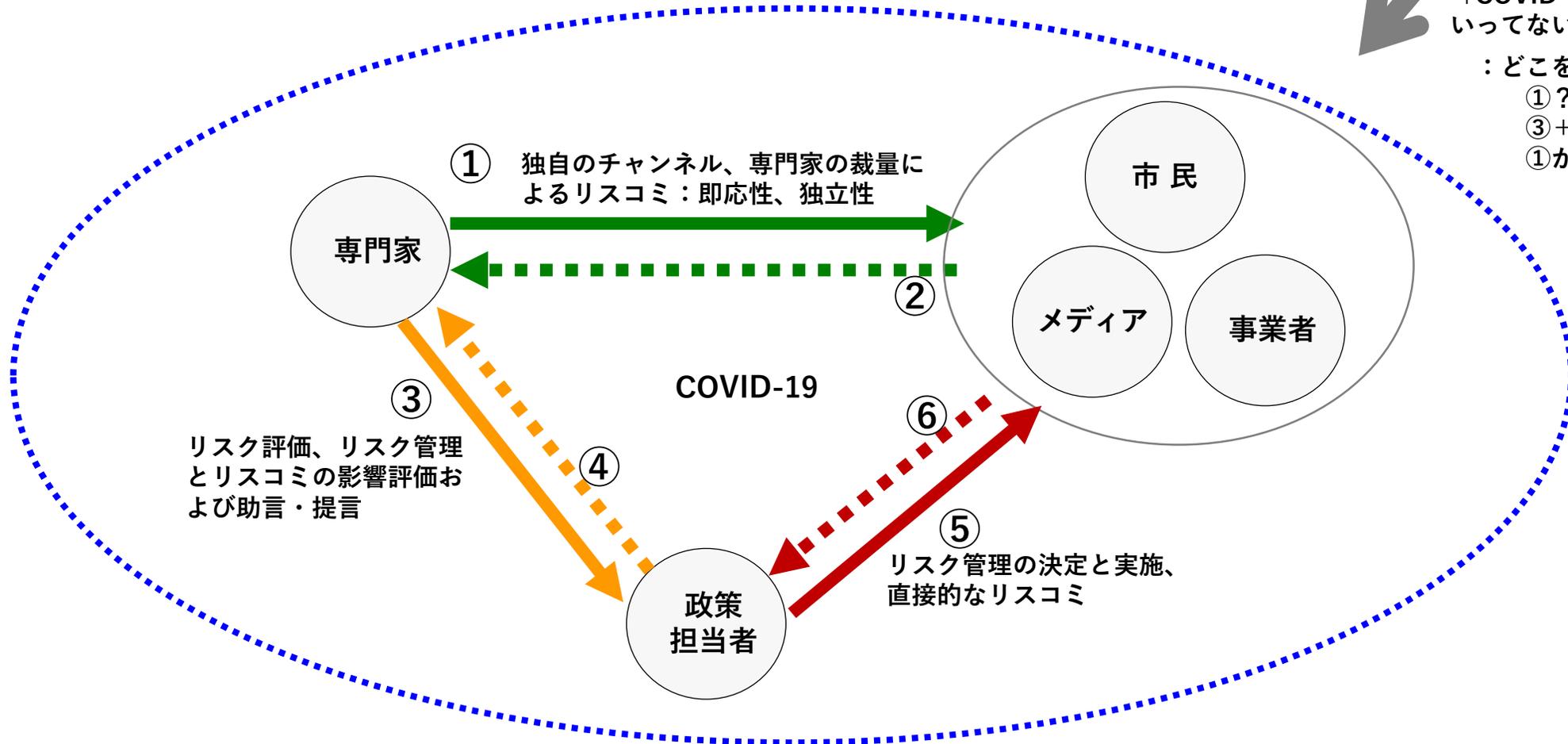
「COVID-19のリスコミはうまく
いってない」「うまくいってる」

：どこをとらえて？

①？ ②？ ③？…

③+⑤？…

①から⑥全体？



COVID-19をめぐる不確実性への対応

不確実性の所在

- リスク評価
- リスク管理
- リスクコミ

不確実性への対応主体

- 専門家
- 政策担当者
- 市民

■ 「リスク評価」における不確実性への「専門家」の対応

ひとつの姿：「コロナ専門家有志の会」

専門家集団での議論。同じ専門性を共有する者同士で新しい論文や発見、報告について意見交換

■ 「リスク管理」における不確実性への「政策担当者」の対応

あるべき姿：リスク評価およびリスク管理の影響評価において不確実性のあるなかで、「なぜこの施策をとるのか」の根拠の明確化とその説明

■ 「リスクコミ」では不確実性を、誰が、どう扱うのか？ そのためには何（体制、制度・・・）が必要か？

ひとつの姿：東京都モニタリング会議「ぶら下がり」

「現時点ではここまで分かっている。ここからは分かっていないが努力している。分かり次第お伝えする。」と明確に述べた

ポイント：信頼

→ 次の感染症危機にむけての重要な課題

COVID-19の教訓をふまえた感染症の不確実性とリスクミへの対応

不確実性の所在

- リスク評価
- リスク管理
- リスクミ

不確実性への対応主体

- 専門家
- 政策担当者
- 市民

新型インフルエンザ等対策 政府行動計画改定 (2024.7.2.全面改定)

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/ful/taisakusuisin/dai11_2024/gijisidai_2.pdf

- 「新興感染症等は未知の部分も多く、必ずしも十分な科学的知見が発生当初から得られるとは限らず、一定の**不確実性を伴う**ものである。対策を進める中で徐々にその性状等が明らかになってくる等暫定的な仮説を検証しながら対策を講じていかざるを得ない、『**作動中の科学**』としての側面を有していることに留意する必要がある。」
- 「国民等が、可能な限り科学的根拠等に基づいて、適切に判断・行動できるよう、国民等の関心事項等を踏まえつつ、**その時点で把握している科学的根拠等に基づいた正確な情報**について、当該感染症に関する全体像が分かるよう、迅速に分かりやすく提供・共有する。」

新型インフルエンザ等対策政府行動計画改定のポイント（2024.7.2.全面改定）

- 政府行動計画とは、有事に際して迅速に対処を行うため、予め有事の際の対応策を整理し、平時の備えの充実を図るもの
- 有事に際しては、政府行動計画の様々な対策の選択肢を参考に、基本的対処方針を作成し、対応を行う

記載項目	現計画	新計画
策定/改定	2013年策定 ✓ 2017年に一部改定	約10年ぶり、初の 抜本改正 ✓ 新型コロナの経験を踏まえ、対策を具体化 ✓ 内閣感染症危機管理統括庁、国立健康危機管理研究機構（JIHS）の設置 ✓ 国・都道府県の総合調整・指示権限拡充によるガバナンス強化
対象疾患	新型インフルエンザがメイン ✓ 治療薬では抗インフルエンザウイルス薬に限った記載	新型コロナ、 <u>新型インフル以外の</u> 呼吸器感染症も念頭に記載を充実
平時の準備	未発生期として記載 ✓ 国際連携や情報収集、情報提供・共有などについて記載	記載を3期（準備期、初動期、対応期）に分け、 準備期の取り組みを充実 ✓ 協定締結により医療提供体制（入院、発熱外来）や検査体制等（検査機関、宿泊療養）を整備 ✓ 個人防護具等の備蓄、ワクチン等の開発 ✓ 民間企業も含めた研究開発エコシステムの構築やDXの推進 ✓ 人材育成を含めた具体的な体制整備
対策項目	6項目 ①実施体制、②サーベイランス・情報収集 ③情報提供・共有、④予防・まん延防止 ⑤医療、⑥国民生活・国民経済	13項目に拡充 ①実施体制、②情報収集・分析、③サーベイランス、④情報提供・共有、 <u>リスコミ</u> 、⑤水際、⑥まん延防止、⑦ワクチン、⑧医療、⑨治療薬・治療法、⑩検査、⑪保健、⑫物資、⑬国民生活・国民経済 ※新設項目に下線 ✓ 新型コロナ対応で課題となった項目を中心に、項目を独立させ、記載を充実 ✓ 約90ページ → 約230ページに拡充
横断的視点	—	各分野横断的な取り組みとして5つの視点 を設定 ✓ <u>人材育成</u> 、国と地方公共団体との連携、DXの推進、研究開発支援、国際連携
複数の感染拡大への対応	— ✓ 比較的短期の終息が前提	複数の感染拡大への対応 対策の機動的切替え ✓ ワクチンや治療薬の普及に応じた対策の緩和も明記 ✓ DXにより疫学・臨床情報を迅速に収集・分析し施策に活かす体制を構築
実効性確保	— ✓ おおむね毎年度フォローアップ	実施状況の毎年度フォローアップをおおむね6年※ごとの改定を明記 ✓ 多様な主体の参画による実践的な訓練の実施 ✓ 検査・医療提供体制の整備、個人防護具等の備蓄状況等の見える化 ※ 感染症法上の基本指針、医療法上の医療計画と同様

出所：
新型インフルエンザ等対策推進会議（第13回）（令和6年6月17日）

新型インフルエンザ等対策政府行動計画改定の概要（2024.7.2.全面改定）

：各論13項目の概要

①実施体制

- ・国、地方公共団体、IHS、研究機関、医療機関等の多様な主体が相互に連携し、国際的にも協調することにより、実効的な対策を講ずる体制を確保
- ・平時における人材確保・育成や実践的な訓練による対応力強化、有事には政府対策本部を中心に基本的対処方針に基づき的確な政策判断・実行

②情報収集・分析 ③サーベイランス

- ・サーベイランス及び情報収集・分析の体制構築やDXの推進を通じた、平時からの効率的かつ効果的なサーベイランス、情報収集・分析の実施
- ・感染症対策の判断に際した、感染症、医療の状況の包括的なリスク評価、国民生活及び国民経済の状況の考慮

④情報提供・共有、リスクコミュニケーション

- ・感染症危機においては、情報の錯綜、偏見・差別等の発生、偽・誤情報の流布のおそれ
- ・感染症対策を効果的に行うため、可能な限り双方向のコミュニケーションを行い、リスク情報とその見方の共有等を行い、国民等が適切に判断・行動
- ・平時から、感染症等に関する普及啓発、リスクミ体制の整備、情報提供・共有の方法の整理等

⑤水際対策

⑥まん延防止

⑦ワクチン

- ・「ワクチン開発・生産体制強化戦略」に基づき、重点感染症を対象としたワクチンの研究開発を平時から推進し、研究開発の基盤を強化
- ・有事に国内外で開発されたワクチンを確保し迅速に接種を進めるための体制整備を行う
- ・予防接種事務のデジタル化やリスクミを推進

④情報提供・共有・リスクコミュニケーション

- ・ 感染症危機においては、情報の錯綜、偏見・差別等の発生、偽・誤情報の流布のおそれ
- ・ 感染症対策を効果的に行うため、可能な限り双方向のコミュニケーションを行い、リスク情報とその見方の共有等を行い、国民等が適切に判断・行動
- ・ 平時から、感染症に関する普及啓発、リスクミ体制の整備、情報提供・共有の方法の整理等

⑩検査

- ・ 必要な者に適時の検査を実施することで、患者の早期発見、流行状況の的確な把握等を行い、適切な医療提供や、対策の的確な実施・機動的な切替えを行う
- ・ 平時には機器や資材の確保、発生直後より早期の検査立上げ、流行初期以降では病原体や検査の特性を踏まえた検査実施の方針の柔軟な変更を行う

⑬国民生活・国民経済

- ・ 感染症危機時には国民生活及び社会経済活動に大きな影響が及ぶ可能性
- ・ 平時に事業継続等のために必要な準備を行い、有事に安定化を図ることが重要
- ・ 国等は影響緩和のため必要な対策・支援を行う

※生活関連物資等の安定供給の呼び掛け、まん延防止措置等の心身への影響を考慮した対策、生活支援を要する者への支援等

取り組む業務の整理、ICTの活用等による業務効率化・省力化を行う

※医薬品、医療機器、個人防護具等

出所：
内閣感染症危機管理統括庁
サイト

新しい「新型インフルエンザ等対策政府行動計画」における各分野の取組： ④ 情報提供・共有・リスクコミュニケーション

政府行動計画のポイント		
<ul style="list-style-type: none"> 感染症危機においては、情報の錯綜、偏見・差別等の発生、偽・誤情報の流布のおそれ 感染症対策を効果的に行うため、可能な限り双方向のコミュニケーションを行い、リスク情報とその見方の共有等を通じ、国民等が適切に判断・行動 平時から、感染症等に関する普及啓発、リスコミ体制の整備、情報提供・共有の方法の整理 		
準備期	初動期	対応期
感染症対策について国民等が適切に判断・行動できるよう <ul style="list-style-type: none"> 感染症危機に対する理解を深める リスコミの在り方の整理・体制整備 	感染拡大に備えて、科学的根拠等に基づく正確な情報を国民等に的確に提供・共有し、準備を促す	国民等の関心事項等を踏まえつつ、対策に対する理解を深め、リスク低減のパートナーとして、適切な行動につながるよう促す
①発生前における国民等への情報提供・共有 i) 感染症に関する情報提供・共有 ※有用な情報源として認知度・信頼度向上 ii) 偏見・差別等に関する啓発 iii) 偽・誤情報に関する啓発 ②発生時における情報提供・共有体制の整備等 i) 迅速かつ一体的な情報提供・共有の体制整備 <ul style="list-style-type: none"> 国民等が必要な情報を入手できるよう、高齢者、子ども、日本語能力が十分でない外国人、視覚や聴覚等が不自由な方等への適切な配慮をしつつ、情報提供・共有する媒体や方法を整理 ワンボイスでの情報提供・共有を行う体制整備・方法等の整理 地方公共団体・業界団体等との間の双方向の情報提供・共有の在り方の整理 感染症の発生状況等に関する公表基準等の必要な見直し・明確化 国際的な情報発信・共有 ii) 双方向のコミュニケーションの体制整備・取組の推進 <ul style="list-style-type: none"> 受取手の反応や必要としている情報を把握し、更なる情報提供・共有にいかす方法等の整理、体制整備 コールセンター等設置の準備、都道府県・市町村に対するコールセンター等設置準備の要請 リスコミの研究、職員に対する研修を通じた手法の充実・改善 	①迅速かつ一体的な情報提供・共有 <ul style="list-style-type: none"> 利用可能なあらゆる情報媒体を整備・活用 行動変容等に資する啓発・メッセージ 高齢者、子ども、日本語能力が十分でない外国人、視覚や聴覚等が不自由な方等への適切な配慮をしつつ、理解 	左記の対応に加えて、下記の対応を実施する (病原体の性状等が明らかになった状況に応じた対応) ①封じ込めを念頭に対応する時期 <ul style="list-style-type: none"> 感染拡大防止措置に対する理解・協力を得るため、病原体の性状について限られた知見しか把握していない場合は、
	②発生時における情報提供・共有体制の整備等 <ul style="list-style-type: none"> 国民等が必要な情報を入手できるよう、高齢者、子ども、日本語能力が十分でない外国人、視覚や聴覚等が不自由な方等への適切な配慮をしつつ、情報提供・共有する媒体や方法を整理 ワンボイスでの情報提供・共有を行う体制整備・方法等の整理 地方公共団体・業界団体等との間の双方向の情報提供・共有の在り方の整理 感染症の発生状況等に関する公表基準等の必要な見直し・明確化 国際的な情報発信・共有 	②発生時における情報提供・共有体制の整備等 <ul style="list-style-type: none"> 国民等が必要な情報を入手できるよう、高齢者、子ども、日本語能力が十分でない外国人、視覚や聴覚等が不自由な方等への適切な配慮をしつつ、情報提供・共有する媒体や方法を整理 ワンボイスでの情報提供・共有を行う体制整備・方法等の整理 地方公共団体・業界団体等との間の双方向の情報提供・共有の在り方の整理 感染症の発生状況等に関する公表基準等の必要な見直し・明確化 国際的な情報発信・共有
	③発生後における国民等への情報提供・共有 <ul style="list-style-type: none"> 偏見・差別等は、許されるものではないこと等について、その状況等を踏まえて、適切に情報提供・共有、相談窓口の周知 偽・誤情報の拡散状況等をモニタリングし、その状況を踏まえて、科学的知見等に基づく情報を提供・共有 SNS等のプラットフォーム事業者に対して、必要な要請・協力 	③発生後における国民等への情報提供・共有 <ul style="list-style-type: none"> 偏見・差別等は、許されるものではないこと等について、その状況等を踏まえて、適切に情報提供・共有、相談窓口の周知 偽・誤情報の拡散状況等をモニタリングし、その状況を踏まえて、科学的知見等に基づく情報を提供・共有 SNS等のプラットフォーム事業者に対して、必要な要請・協力

準備期

感染症対策について国民等が適切に判断・行動できるよう

- 感染症危機に対する理解を深める
- リスコミのありかたの整理・体制整備

出所：内閣感染症危機管理統括庁サイト